

令和6年度			学校評価書			東温市立西谷小学校				
1 学校の教育目標		心豊かにたくましく生きるにしだにっ子の育成							令和7年2月12日	
2 経営の基本方針		にこにこあいさつ しっかりまなび だれともなかよし にげずにふんばる								
	評価項目		評価の観点			評価（4段階）			考察及び改善方策（○：考察、●：改善方策）	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者					
生徒指導	いじめ・不登校への対応	1	生徒指導体制づくりを行い、アンケートや教育相談、家庭との連携等をもとに、児童の心の状態の把握に努め指導に生かした。			3.7	3.9	3.9	○ いじめ・不登校対応について、全教職員が連携を図って児童の様子をしっかり見取ったり、学校生活アンケートを活用したりして、気になる児童には教育相談等を行って早期解決を図った。家庭との連絡を密にし、協力体制を整えながら対応することができた。	○多様性への理解が問われる昨今において、難しい生徒指導に対し、明確な目標や基準を持って取り組んでいる。
	基本的生活習慣の定着	2	挨拶指導の継続、月目標の実践化、即時対応を心掛け、児童の基本的生活習慣の定着に努めた。			3.6	3.9	3.6	○ 逃げずに踏ん張る態度について、3者共に評価が上がった。水泳・陸上記録会等、体育的活動や音楽会の練習等を中心に、個人として一人一人が踏ん張らなければならない場面が多く見られ、どの活動においても真剣に取り組むことができた。それぞれの活動を通して、何事も粘り強くやり遂げることの大切さについて指導をすることができた。	○小規模校ならではのきめ細やかな指導と保護者への丁寧な対応が行き届いており、学校への信頼の表れと感じる。
	逃げずに踏んばる態度の育成	3	多様な体験活動や根気強くやり遂げる経験を通して、逃げずに踏ん張る態度を育てよう取り組んだ。			3.6	3.8	3.9	● 生活習慣の定着について、児童と保護者に評価に差が見られる。挨拶は、児童によって個人差があるため、気持ちを伝えることの大切さを伝えるとともに、家庭と協力して規則正しい生活を促し、自律した行動がとれる児童の育成を目指し、継続して指導していきたい。	○「逃げずに踏んばる」態度の育成は、教職員の仕事量が多い中、指導に取り組んでいる。「レジリエンス」（失敗や逆境から回復する力）が求められている今、バランスを踏まえて実践できるとよい。
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	4	学習形態や教具等の工夫、学習習慣づくりを行い、全員が活動して分かる場を設定した。			3.6	3.6	3.5	○ すべての項目で、昨年度よりも3者の評価が上がった。新たな取組である「スピーチタイム」や「五七五タイム」をはじめ、今年度も多くの学習形態の工夫や体験活動の充実を図ることができた。	○「スピーチタイム」「五七五タイム」の取組に大いに期待している。少人数の特性を生かした学習支援を受けたり、全員の前で発表する機会が増えたりすることは将来広い社会へ出たときのつまずきを減らすことにつながる。
	家庭学習の充実	5	家庭学習の実施状況の把握、宿題の内容の検討、自主勉強の奨励、家庭との連携、個別の対応等により、家庭学習の充実を図った。			3.3	3.3	3.4	○ 小規模校、少人数の特性を生かした個に応じた学習支援や小グループ等の形態を活用した練り合いの場を工夫しながら学習を進めることができた。そのため、みんなの前で発表したり、グループ内で意見を出したりする機会が増え、コミュニケーション能力の向上につながった。	○自主学習の奨励や自分で課題を見つけて進んで学習する態度を育ててほしい。
	体験的な学習や問題解決的な学習の充実	6	問題解決的な学習や体験活動を展開し、学ぶ力を高めるよう取り組んだ。			3.6	3.6	3.8	● 家庭学習の充実や学力の定着については、児童の評価が低い。家庭での学習環境に格差が見受けられ、学習意欲がやや低い児童もいる。家庭での時間の過ごし方に課題が見られるため、引き続き、家庭と連携を図りながら、効果的に学習できるように課題を選定したり、自己肯定感が高まるような評価を工夫したりするなど努めていきたい。	○家庭学習の充実において、改善方策の成果が出ることを期待する。また、読書習慣の定着にも粘り強く取り組んでいただきたい。
	学力向上推進	7	間違いの多かった問題に類似した問題を準備して、繰り返し学習させ、学力の定着に努めた。			3.9	3.4	3.8		
豊かな心と健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	8	教育活動全体と道徳の時間の関連を図る年間の計画をもとに、自己の生き方を見つめさせたり、家庭と連携を図ったりしてよりよく生きる態度を養った。			3.4	3.9	3.6	○ 道徳教育の充実や集団・仲間づくりについては、児童・保護者共に肯定的な評価である。道徳の授業はもちろん、人権作文や標語の作成などの活動がよい影響を与えている。また、全教育活動において、教職員が児童の表現力及び、社会性を磨き、資質を向上させる意識を高く持って、よりよく生きる態度の育成に努めることができた。	○「元気もりもり貯金」は、以前から長く続いている取組であり、すばらしい。健康に関して、給食指導はとても大切である。孫が家庭で好き嫌いが多いので驚いている。メニューや食材で好き嫌いがあるのか気になっている。
	仲間づくり・集団づくり	9	コミュニケーション能力の育成を図る年間の計画をもとに学級活動や学級経営、キラリン班活動等全校的な活動を充実してよりよい集団づくりに努めた。			3.7	3.9	3.8	○ 健康づくり・体力づくりについては、市内の学校に合わせ、今年度から1つの項目にした。「元気モリモリ貯金」は本校が伝統的に取り組んでいる活動である。健康で元気になる項目を設定し、自分の取組に対して評価を行い、元気の貯金を貯めるようにしている。少しずつ取組への意識の高さに個人差が見られるが、健康に対しての意識を高く持たせることができた。	○健康・体力づくりの項目において、保護者との評価の差が気になる。第3者から見るとしっかりとした取組が行われており、今の取組を継続していただきたい。
	健康づくり・体力づくり	10	元気モリモリ貯金を通して生活習慣の定着や年間を通した心の健康づくり、体育授業の充実やスポーツ大会に向けた練習等を実施することで、体力づくりに取り組んだ。			3.7	3.7	3.2	● しかし、保護者の評価が低く、家庭・地域に帰ってからの運動が不足していると考えられる。今後も継続して家庭と連携・協力を図り、生活の中での運動の習慣化を充実させるため取組の紹介や啓発に努めたい。	○徒歩通学が健康・体力づくりにつながるので、保護者の理解があれば評価に影響がある。
特別支援教育	特別支援教育の充実	11	校内の支援体制を充実し、全教職員や専門家との連携のもと、一人一人の教育的ニーズに応じて、必要な支援を行った。			3.9	3.8	3.8	○ 小規模校の特性を活かし、日々の活動において、全教職員が声を掛けながら、児童を見守り育てることができている。今後も、配慮を要する児童に対して、家庭と連携を図りながら、よりよい支援がとれるよう組織的な体制を整えていきたい。	○教職員の組織的な支援体制や児童の情報共有の徹底、家庭との連携の充実がなされている。今後も継続的な支援をお願いしたい。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	12	登下校の安全やマナーに対する指導、家庭・地域と連携した見まもり活動等の充実にも努め、安全な登下校の奨励に取り組んだ。			3.4	3.7	3.8	○ 児童の評価が昨年度より上がった。学校や家庭、地域の安全への取組が、児童にも伝わっているという表れであると捉えている。また、登校の際には、保護者や地域の方が見守りをしてくださっており、御協力に感謝している。	○地域にとって学校や子どもたちは、かけがえのない存在である。学校・教職員・保護者だけでは対応できないことは気軽に相談してほしい。
	防災教育の充実	13	避難訓練や学級活動、教職員研修を充実し、自ら判断し行動し、お互いが力を合わせて命を守り、困難を乗り越えることができる力を育むよう取り組んだ。			3.7	3.9	3.9	○ 校門付近のくすのきが大きくなり、古くなった枝が枯れ、運動場や通路に落ちてくることがあり、地域の方に依頼し、専門的な知識や技術を持った地域にお住まいの方にお越しいただいた。枝打ちをしたおかげで落ちてくる枝が当たってけがをする心配がなくなった。	○児童と地域の方々間に信頼関係が構築されており、大変すばらしい。
	危機管理意識の高揚	14	毎月の「にしだにハート&はーと」や「交通安全・安全点検の日」を中心に、教職員の危機管理意識を高め、教育環境の整備をするとともに、児童の危機意識の高揚に努めた。			3.7	3.9	3.9	○ 本校は、防災士の資格を持っている割合が高く、地震・火災・不審者等、様々な状況を設定して実施することができている。また、地震と火災に併せて、引き渡し訓練、土砂災害の避難訓練を行った。どの訓練においても真剣な態度で確実に実施することができており、危機管理意識も高まっている。	○校門近くの大木の枝打ちがなされ、安心した。以前から危ないと感じていた。また、正門付近が明るくなったことは、防犯上の効果もある。
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	15	コミュニティ・スクールを推進し、地域との協力体制を充実させ、学校・家庭・地域と息の合った教育活動の充実にも努めた。			3.6	4.0	3.8	○ 自然体験活動や稲作活動、三世代交流会等で地域・学校・家庭とのつながりが深く、それぞれの活動を通じて、支えてくださる方々への感謝の気持ちを再確認できた。また、運動会前の環境整備に地域の方が協力してくださったり、地域行事の夏祭りにP T Aが協力したりしている。そのような行事のありがたさを教員や児童が強く感じている。	○地域との交流としてOBやOGの中・高・大学生との交流は有効である。進路を考えるきっかけや判断材料になる。
	情報の共有化	16	児童について積極的に家庭と連絡を取り合ったり、学校の教育方針や教育活動等について、校報、各便り、HP等を活用して地域・家庭との情報の共有化に努めた。			3.7		3.6	○ 校報や学年便り、ホームページを活用して、活動内容や児童の様子を積極的に家庭に知らせることができた。ホームページでは、ほぼ毎日、内容を更新し、タイムリーに学校の様子や子どもたちの活動などの情報を伝えている。多くの方に閲覧していただけるよう工夫改善を重ね、啓発していきたい。	○幼小連携は密にとられているが、小中連携は、以前に児童が中学校へ進学する際、不安（中一ギャップ）を感じている様子が見られた。中学校への接続を重要視しなくてはならない。
	幼小連携	17	幼稚園と小学校のつながりを深め、子どもたちの生活や学びの基盤を支えられるよう、隣接する幼稚園との連携を大切にし、交流に努めた。			3.3	3.7	3.8	● 幼稚園との交流については、運動会や学習発表会、マラソン大会等の行事活動はもちろん、普段から気兼ねなく交流できるよう努めることができた。しかし、教職員の評価が低く、まだまだ足りないと感じている。これからも互いに意識しながらよい関係を築き、子どもの教育の連続性を保障するとともに、教員同士の専門性を高め、交流を深めていけるよう、幼・小の連携を大切にしていきたい。	○授業の専門家のサポートや参観日に「親子料理教室」「救急救命講習」の活動を行うなど、幅広い分野で「地域」を生かした活動にも取り組んでほしい。
特色ある学校づくり	「緑の少年隊活動」等を生かした地域とともに歩む教育	18	毎朝のボランティア活動を始めとする緑の少年隊の活動や各教科等での学習を生かし、自他の命を大切にしたり、身近な環境を大切に気付かせたりするよう取り組んだ。			4.0	3.8	3.8	○ 「緑の少年隊」の活動は、本校の特色であり、他の学校ではできない活動が充実している。教職員はもちろん、児童も様々な活動を通して、環境や生命の大切さに気付くことができている。そのことが、保護者にも伝わっている表れであると感じている。種から花苗を育て、校内だけでなく、通学路の路側帯に植えるなど地域の環境美化にも努めた。また、地域の協力を得て、稲作活動やさつまいも・シイタケ栽培などの多くの体験活動を実施できた。	○「緑の少年隊」の活動で様々な体験ができてすばらしい。種から花苗を育てて学校だけでなく、環境美化に努めていることに感心した。J A農協三内支所の店頭で花苗を掘分けしていたことにも喜びを感じた。
		19	学校と家庭と地域とが一体となって取り組む自然体験教室の活性化に努めた。			3.9	3.7	3.5	● 「自然体験教室」は、季節ならではの活動を考え、多くの児童や保護者が参加し、充実した活動になった。しかし、その反面、常に参加する方とそうでない方の二極化も見られる。限られた条件の中で、多くの児童が参加でき、更に充実した活動となるように実施時期や内容等を検討して計画を立てていきたい。	○自然体験教室に関しては、可能な限り土・日の開催日を増やして多くの保護者が参加できる機会を設けるとよい。
施設・設備の充実	I C Tの有効活用	20	一人一台タブレットパソコン等、I C T機器の有効活用に努めた。			3.6	3.8	3.6	○ 本校は教育機器が充実しており、各学年の授業において「ワイード」（黒板に投影できる機材）でデジタル教科書を投影して活用したり、大型テレビモニターを使用し、他校と通信したりして学習を行った。また、一人一台のタブレットパソコンを活用し、授業中、復習や調べ学習に活用したり、家庭へ持ち帰った際、学習の振り返り等のコミュニケーションツールとして使用したりすることができた。	○「ワイード」は優れた機材であり、東温市の地元企業（サカワ）が開発したことをテレビ番組で知った。今後も活用していただきたい。
	学習・生活環境充実への取組	21	人的管理・物的管理・事務処理に留意し、学校全体が、調和と潤いのあるよりよい教育環境となるよう取り組んだ。			3.4	3.8	3.9	○ 毎朝のボランティア活動（朝ボラ）で清掃活動や花苗の手入れを行い、夏休みには親子奉仕活動で草刈り等をして、美しい環境を整えることができている。小規模校、少人数ながらも、緑化活動等に全児童と全教職員で取り組み、充実した環境を整えることができた。	○学校の環境・緑化活動、学習環境が充実し、保たれていることは、教職員の努力の成果だと感謝している。

※ ゴシックは学校における重点項目、アンダーラインは重点項目に関連する内容